

HELLO PSJ

NIHでのポストク生活

Laboratory of Systems Neuroscience, NIMH, NIH 辻本 悟史

皆様こんにちは。2005年春よりアメリカのNIHの研究所の一つNational Institute of Mental Health (NIMH)のSteve Wise博士の研究室でポストクとして研究を行っています。まだ留学を始めて日が浅い「初心者」ですが、ご縁があって執筆の機会をいただきましたので、新生活の一端をご紹介します。

ご存知の方も多いと思いますが、NIHはワシントンDC中心部から地下鉄で20分ほどのメリーランド州ベセスダにあります。ベセスダはごく平凡な自然豊かなベッドタウンですが、DCは「公園都市」とも呼ばれるその街並みがとても美しく魅力的です。モールと呼ばれる一帯にはホワイトハウスや国会議事堂、最高裁判所など白亜の重厚な建物が整然と建ち並んでいて、街路樹の緑、真っ青な空とのコントラストが見事で、美しく気品ある街という印象です。そしてその周辺、ジョージタウンやポトマック川対岸のバージニア州側などはアメリカ東部らしいレンガ造りの街並みが残り、石畳の小道にブティックやカフェが軒を連ねていて、個人的にとても気に入っています。さらに郊外には、車で1時間ほど走ると、東にチェサピーク湾と大西洋、北は広大な牧草地帯が広がり、西にはシェナンドー国立公園を含む美しい山並みが広がっています。週末にはコーヒーでも飲みながら街をぼんやりと眺めたり、何気なくドライブに出かけてみたり、たまには夜の街に繰り出してみたりと新しい土地での生活をのんびりと満喫しています。

さらに興味深いことに、この地域には研究機関の研究者に加え、各国の大使館員やジャーナリス

ト、ビジネスマンなどが世界中から集まっていて、街をより魅力的なものにしています。この環境の中で生活していると、これまでと正反対の発想や逆に謎の共通点など小さな発見の連続で、今まで気づかなかった新しい自分に出会えたような気がします。もとより人間観察が好きで（悪趣味!）、複雑な社会の中での人間の行動（あるいは自己意識や自由意志）への漠然とした興味から脳科学を志した私にとって、こうした異文化での生活はとても刺激的で好奇心をくすぐってやみません。

私はこれまで上記のような興味から、ヒトの行動や思考の「柔軟性 (flexibility)」に注目し、前頭連合野を中心に研究を行ってきました。方法論は多岐にわたり、行動課題遂行中のマカクザルからのニューロン活動記録をメインに、新世界ザルを使った行動実験、ヒトを被験者にした心理学実験や脳機能イメージング、さらには子供の発達研究など様々な観点から研究を行ってきました。現在のボスであるSteve Wise博士は、運動系の皮質領野、特に運動前野の神経機構の研究で有名ですが、最近では研究対象を前頭連合野などにも広げて、テーマもより高次の認知機能にシフトしてきました。そこで私の興味と研究室の今後の展開について思惑が一致し、私をポストクとして快く迎え入れてくださいました。細くなるので詳細には触れませんが、これまでに引き続いてマカクザルを被験体として高次脳機能のシステマ的研究を行うべく、現在は行動課題の習得を目指してMooshi, Shock, Sabathiaという3頭のサルたちと一緒に日々トレーニングに励んでいます。

研究室はSteveを中心に、3名前後のポストク



写真1. 研究室のメンバー。前列中央がボスの Steve Wise 博士，その向かって右隣が筆者。Steve はアメリカンジョークとベースボールが大好き。今年本拠地を DC に移したナショナルズの野球帽は必須アイテム。

と数名のエンジニアやアニマルテクニシャンで構成されています。研究室の雰囲気はアットホームで、ポストクの居室は常に和やかでかつ活気に満ちています。一緒に実験をしている陽気なイタリア人の Aldo Genovesio をはじめ、経験豊富でお話好きな Jay Kralik、優しいパパでもある Adam Messenger など気の合うポストク仲間が多いことは何よりも大きい収穫だと感じます。また大学と違いボスの制約も少ないようで、Steve も普段は扉を開けっ放しで在室し、たびたびポストクの部屋に話に来ます。それをきっかけに解析方法や今後の研究の進め方、さらには研究の歴史などや、ときには映画やベースボールの話など幅広く会話が進みます。ある時には、マイナーリーグの選手とポストクの共通点や相違点が話題になり、その週末に皆で試合を観戦に行ったこともありました。こうした何気ないディスカッションから、時々とても有益なことが出てきたりして、これまでにないスタイルがとても新鮮です。



写真2. サルの Sabathia に第一子が誕生しました。これを機に心機一転がんばってくれるといいのですが…。

これらに加えて、ポストクはそれぞれ週に一度ずつポストと一对一のミーティングがあり、さらに研究室全体でのミーティング、近隣の研究室も含めたセミナーなどが定期的に行われています。また9月からは、関連した本を読んでエッセイを書き、それに基づいてディスカッションするという、これまた有意義な(厄介な)企画も予定されています。正直なところ、英語の問題もさることながらこれまでの不勉強がたたって、これらをこなすだけで四苦八苦していますが、自分の研究を常に客観的に捉え、さらに幅広く知識を深めていける貴重な機会だと思います。少しでも有意義なものになるよう悪戦苦闘が続きます。

このような調子で早くも3ヶ月余りが経過しました。まだ現時点では留学全体に関して結論めいたものは何もありません。しかしながら、この街と研究室で日々生活し学び感じたことは、今後の研究、今後の人生にとってかけがえのないものになると信じています。また実際にそうなるように毎日楽しみながらも精進を続けたいと思います。